

## No 38

### 【2】[英文解釈]《大阪大》

One way in which we evade responsibility for our actions is to hide behind the advice of others. Indeed, one of the main reasons we ask other people what they think is that we hope they agree with what we want to do, and so provide external validation for our choice. Lacking the courage of our own convictions, we seek strength in those of others.

---

#### 第1文

One way / in which we evade responsibility for our actions / is / to hide behind the advice of others.

一つの方法は / 私たちが自分の行為への責任を回避する / ~である / 他人の助言の陰に隠れること

✓ 私たちが自分の行為に対する責任を回避する一つの方法は、他人の助言の陰に隠れることである。

---

この文の骨格は One way ... is to hide behind the advice of others である。One way が主語、is が動詞、to hide ... が補語にあたる不定詞句である。つまり『一つの方法は~することだ』という SVC の構造である。

in which we evade responsibility for our actions は way を後ろから修飾する関係表現で、『私たちが自分の行為への責任を回避する』という内容を加えている。evade は『避ける、回避する』、responsibility for our actions は『自分の行為に対する責任』を表す。

to hide behind the advice of others の hide behind ... は『...の陰に隠れる』という比喩的表現であり、ここでは『自分で決めたのではなく、他人にそう言われたからだ』という形で責任を逃れようとする」ことを意味している。the advice of others は『他人の助言』である。

#### 【ポイント】

- ・One way ... is to V は『一つの方法は V することだ』という構造である。
  - ・in which は way を修飾し、『その方法において』を表している。
  - ・hide behind the advice of others は比喩的に『他人の助言を盾にする』という意味である。
- 

#### 第2文

Indeed, / one of the main reasons / we ask other people what they think / is / that we hope / they agree with what we want to do, /

and so provide external validation / for our choice.

実際 / 主な理由の一つは / 私たちが他人にどう思うかをたずねる / ~である / 私たちが望んでいるということだ / 彼らが自分たちのしたいことに賛成してくれて / そしてそれによって外からの正当化を与えてくれることを / 自分たちの選択に対して

☑ 実際、私たちが他人にどう思うかをたずねる主な理由の一つは、彼らが自分たちのしたいことに賛成し、それによって自分たちの選択を外から正当化してくれることを私たちが期待しているからである。

---

この文の骨格は one of the main reasons ... is that ... である。one of the main reasons は『『主な理由の一つ』』を表す。we ask other people what they think は reasons を後ろから説明する節で、『『私たちが他人にどう思うかをたずねる』』という意味になる。ask A what ... は『『Aに何を思うか尋ねる』』を表し、what they think は間接疑問節である。

補語部分は that we hope they agree with what we want to do, and so provide external validation for our choice である。that 節の中心は we hope ... で、『『私たちが...を期待している』』を意味する。hope の目的節の中で、they agree with what we want to do がまず置かれている。they は other people を受ける。agree with ... は『『...に賛成する』』、what we want to do は『『私たちがしたいこと』』を表す名詞節である。

そのあとに and so provide external validation for our choice が続く。so はここでは『『その結果』『そして』』の意味である。provide A for B は『『BにAを与える』』。external validation は『『外部からの正当化、外から与えられる承認』』で、our choice は『『自分たちの選択』』を表す。

【ポイント】

- ・one of the main reasons ... is that ... が文の骨格である。
  - ・what they think と what we want to do はどちらも名詞節である。
  - ・provide external validation for our choice は『『自分の選択に外からの正当化を与える』』を表す。
- 

### 第3文

Lacking the courage of our own convictions, / we seek strength / in those of others.

自分自身の信念に従う勇気を欠いて / 私たちは力を求める / 他人の信念の中に

☑ 私たちは自分自身の信念に従う勇気を欠いているため、他人の信念の中に力を求める。

---

この文の主節の骨格は we seek strength in those of others である。we が

主語、seek が動詞、strength が目的語である。seek strength in ... は「『…の中に力を求める』」という意味になる。those of others の those は convictions を受ける代名詞であり、「『他人の信念』」を表している。したがって in those of others は「『他人の信念の中に』」という意味になる。

文頭の Lacking the courage of our own convictions は分詞構文で、「『自分自身の信念に従う勇気を欠いていて』」という理由・状態を表している。lack は「『欠いている』」、the courage of our own convictions は直訳すれば「『自分自身の信念の勇気』」だが、自然には「『自分の信念を貫く勇気』」と考えるのがよい。our own convictions は「『自分自身の信念』」を意味する。

【ポイント】

- ・Lacking ... は分詞構文で、「『…を欠いていて』」という理由を表す。
- ・we seek strength in ... が主節の骨格である。
- ・those of others の those は convictions を受け、「『他人の信念』」を表している。

---

**No39**

【2】[英文解釈]《大阪大》

Of the total energy produced on Earth since the industrial revolution began, half has been consumed in the last twenty years. Disproportionately it was consumed by us in the rich world; we are an exceedingly privileged fraction.

Today it takes the average citizen of Tanzania almost a year to produce the same volume of carbon emissions as is effortlessly generated every two and a half days by a European, or every twenty-eight hours by an American. We are, in short, able to live as we do because we use resources at hundreds of times the rate of most of the planet's other citizens.

---

**第1文**

Of the total energy produced on Earth / since the industrial revolution began, / half has been consumed / in the last twenty years.

地球上で生み出された総エネルギーのうち / 産業革命が始まって以来 / その半分が消費されてきた / この二十年間で

- 産業革命が始まって以来、地球上で生み出された総エネルギーのうち、その半分がこの二十年間で消費されてきた。

この文の骨格は half has been consumed in the last twenty years である。half が主語、has been consumed が現在完了の受動態で、『消費されてきた』を表す。in the last twenty years は『この二十年間で』という期間を示している。

文頭の Of the total energy produced on Earth since the industrial revolution began は、half の範囲を示す前置詞句である。the total energy produced on Earth は『地球上で生み出された総エネルギー』を意味し、produced on Earth は energy を修飾する過去分詞句である。since the industrial revolution began は『産業革命が始まって以来』という時の起点を示す副詞節である。

【ポイント】

- ・half has been consumed が主節の骨格である。
- ・Of the total energy ... は『総エネルギーのうち』という範囲を示す前置詞句である。
- ・since the industrial revolution began は『産業革命が始まって以来』を表す。

---

## 第2文

Disproportionately / it was consumed / by us in the rich world; / we are an exceedingly privileged fraction.

不釣り合いなほどに / それは消費された / 豊かな世界に住む私たちによって / 私たちはきわめて特権的な一部分である

✓ しかも不釣り合いなほどに、そのエネルギーは豊かな世界に住む私たちによって消費されてきたのであり、私たちはきわめて特権的な一部分なのである。

---

この文の前半の骨格は it was consumed by us in the rich world である。it は直前の energy を受ける。was consumed は受動態で『消費された』、by us in the rich world は『豊かな世界に住む私たちによって』を表している。文頭の Disproportionately は副詞で、『不釣り合いなほどに、過度に』を意味する。つまり、消費が世界全体で均等に行われたのではなく、豊かな地域に大きく偏っていたことを示している。

セミコロンの後ろの we are an exceedingly privileged fraction は独立した節である。we は『私たち』、are が動詞、an exceedingly privileged fraction が補語である。exceedingly は『きわめて』、privileged は『特権的な』、fraction は『一部分、ごく一部』を意味する。

【ポイント】

- ・Disproportionately は「『不釣り合いなほどに』」を表す副詞である。
- ・it was consumed by us ... が前半の骨格である。
- ・we are an exceedingly privileged fraction は「『私たちはきわめて特権的な一部である』」を意味する。

### 第3文

Today / it takes the average citizen of Tanzania almost a year / to produce the same volume of carbon emissions / as is effortlessly generated / every two and a half days by a European, / or every twenty-eight hours by an American.

今日では / タンザニアの平均的市民がほとんど一年かかる / 同じ量の炭素排出を生み出すのに / それは苦もなく生み出される / 二日半ごとに一人のヨーロッパ人によって / あるいは二十八時間ごとに一人のアメリカ人によって

☑ 今日では、タンザニアの平均的な市民が、ヨーロッパ人なら二日半ごとに、アメリカ人なら二十八時間ごとに苦もなく生み出してしまおうのと同じ量の炭素排出を生み出すのに、ほとんど一年を要する。

この文の骨格は it takes the average citizen of Tanzania almost a year to produce ... である。it takes A time to V は「『A が V するのに time かかる』』という重要構文である。the average citizen of Tanzania は「『タンザニアの平均的市民』」、almost a year は「『ほとんど一年』」を表す。

to produce the same volume of carbon emissions の produce は「『生み出す』」、the same volume of carbon emissions は「『同じ量の炭素排出』」を意味する。ここで volume は「『量』」である。

その後の as is effortlessly generated ... の as は、the same volume of carbon emissions を先行詞とする関係代名詞である。the same + 名詞 + as ... の形で、「『…と同じ～』」を表している。ここで as は後ろの節の中で主語の役割をしており、as (= the same volume of carbon emissions) is effortlessly generated ... という関係になっている。したがって全体で、「『ヨーロッパ人やアメリカ人によって短時間で苦もなく生み出されるのと同じ量の炭素排出』』という意味になる。

is effortlessly generated は受動態で、「『苦もなく生み出される』」を表す。effortlessly は「『苦もなく、たやすく』」を表す副詞である。every two and a half days by a European は「『一人のヨーロッパ人によって二日半ごとに』」、or every twenty-eight hours by an American は「『あるいは一人のアメリカ人によって二十八時間ごとに』」を意味する。

【ポイント】

- ・it takes A time to V は「『A が V するのに time かかる』」を表す。
  - ・to produce the same volume of carbon emissions が不定詞の中心である。
  - ・every two and a half days by a European と or every twenty-eight hours by an American が、豊かな国の人々の排出の速さを示している。
- 

#### 第 4 文

We are, in short, / able to live as we do / because we use resources / at hundreds of times the rate of most of the planet's other citizens.  
要するに私たちは / 今のように生きることができる / 私たちが資源を使うから / 地球上の他の大多数の人々の何百倍もの割合で

☑ 要するに、私たちが今のような暮らし方をできるのは、地球上の他の大多数の人々の何百倍もの割合で資源を使っているからである。

---

この文の骨格は We are able to live as we do because we use resources ... である。We are able to V は「『私たちは V することができる』」を表す。

live as we do の as は様態を表す接続詞で、「『…するように』『…しているとおり』」という意味である。do は live を受ける代動詞のように使われており、as we do 全体で「『私たちが今しているように』」を表す。したがって live as we do は直訳すると「『私たちが今しているように生きる』」であり、自然には「『今のような暮らし方をする』」と考えるとよい。ここでの do は具体的な動作を表すというより、現在の生活様式全体を受けている。

文中の in short は挿入句で、「『要するに』」を表し、前文までの内容をまとめている。because 以下が理由を示す。we use resources が中心で、「『私たちは資源を使う』」を意味する。at hundreds of times the rate of most of the planet's other citizens は use resources の程度を示す句である。at ... the rate of ... は「『…の割合で』」を表し、hundreds of times は「『何百倍も』」を意味する。most of the planet's other citizens は「『地球上の他の大多数の人々』」である。

#### 【ポイント】

- ・We are able to live as we do が主節の骨格である。
  - ・as we do の as は様態を表し、do は live を受けて「『今しているように』」を表している。
  - ・because we use resources が理由を表している。
  - ・at hundreds of times the rate of ... は「『…の何百倍もの割合で』」を表す。
-

## No40

### 【2】〔英文解釈〕《大阪大》

Humor is the broad term used to describe situations, characters, speech, writing or images that amuse us. At the physical level, it is no more than an involuntary response to a stimulus — laughter. Although we can imitate this in social contexts where we feel an obligation to be polite, genuine laughter comes upon us spontaneously; it is beyond our control. It may be a motor response, but we seek out experiences that will result in laughter, and if we don't get the physical reaction, we don't feel that we have been amused.

---

### 第1文

Humor is the broad term / used to describe / situations, characters, speech, writing or images / that amuse us.

ユーモアとは広い意味の語である / 説明するために用いられる / 状況・人物・話し方・文章・画像を / それらは私たちを楽しませる

☑ ユーモアとは、私たちを楽しませる状況・人物・話し方・文章・画像などを説明するために用いられる広い意味の語である。

---

この文の骨格は Humor is the broad term である。Humor が主語、is が動詞、the broad term が補語である。broad は『『広い』』、term は『『語、用語』』を意味するので、the broad term で『『広い意味をもつ語』』となる。

used to describe ... は term を後ろから修飾する過去分詞句で、『『…を説明するために用いられる』』という意味である。to describe は目的を表す不定詞であり、situations, characters, speech, writing or images がその目的語である。これらはそれぞれ『『状況』』『人物』』『話し方』』『文章』』『画像』』を意味する。

最後の that amuse us は situations 以下の並列全体を修飾する関係詞節である。amuse は『『楽しませる、おかしがらせる』』を表し、that amuse us で『『私たちを楽しませる』』となる。文全体として、この文は humor という語が、笑いやおかしさを引き起こすさまざまな対象を広く含む総称であることを定義している。

### 【ポイント】

- ・Humor is the broad term が主節の骨格である。
  - ・used to describe ... は term を修飾する過去分詞句である。
  - ・that amuse us は situations 以下の内容をまとめて修飾している。
- 

### 第2文

At the physical level, / it is no more than an involuntary response to a stimulus / — laughter.

身体的なレベルでは / それは刺激に対する無意志的な反応にすぎない / — すなわち笑いである

☑ 身体的なレベルでは、それは刺激に対する無意志的な反応、すなわち笑いにすぎない。

---

この文の骨格は it is no more than an involuntary response to a stimulus である。it は Humor を受けている。is が動詞で、an involuntary response to a stimulus が補語である。no more than A は『Aにすぎない』を表す重要表現であり、ここではユーモアを身体反応の面から見れば、結局は笑いという反応にすぎないと述べている。

an involuntary response は『無意志的な反応』を意味する。involuntary は『自分の意志によらない』という意味である。to a stimulus は response にかかり、『刺激に対する』を表している。stimulus は『刺激』である。

ダッシュの後ろの laughter は、an involuntary response to a stimulus の内容を言い換える同格の語である。つまり筆者は、ユーモアを身体面から見れば、それは結局「笑い」という反応だと簡潔にまとめている。

【ポイント】

- ・it is no more than ... が文の骨格である。
  - ・no more than A は『Aにすぎない』を表す。
  - ・laughter は前の内容を言い換える同格である。
- 

### 第3文

Although / we can imitate this in social contexts / where we feel an obligation to be polite, / genuine laughter comes upon us spontaneously; / it is beyond our control.

たとえ / 私たちはこれを社会的な場面でまねることができても / そこでは礼儀正しくしなければならぬと感じるが / 本物の笑いは自然に私たちに訪れる / それは私たちの制御を超えている

☑ 私たちは、礼儀正しくしなければならぬと感じる社会的な場面ではこれをまねることができるが、本物の笑いは自然に私たちに訪れるのであり、それは私たちの制御を超えている。

---

この文は Although 節をもつ文である。Although we can imitate this in social contexts ... の this は直前の laughter を受けている。we can imitate this in social contexts は『私たちはこれを社会的な場面でまねることができる』という意味で、ここでは作り笑いを指している。

where we feel an obligation to be polite は social contexts を修飾す

る関係副詞節である。feel an obligation to V は「『Vしなければならないと感じる』」を意味する。to be polite は「『礼儀正しくすること』」である。つまり、笑わなければ失礼にあたるような場面では、人は本心とは別に笑いを作ることができるということだ。

主節の骨格は genuine laughter comes upon us spontaneously である。genuine laughter は「『本物の笑い』」、come upon A はここでは「『A にふいに訪れる』」に近い意味である。spontaneously は「『自然に、自発的に』」を表す。セミコロンの後ろの it is beyond our control は独立した節で、it は genuine laughter を受ける。beyond our control は「『私たちの制御を超えて』」を意味する。文全体として、作り笑いはできても、本物の笑いは意志で生み出すものではなく、自然に起こるものであることを述べている。

#### 【ポイント】

- ・Although 節では「『作り笑いはできる』」という譲歩が述べられている。
- ・where we feel an obligation to be polite は social contexts を修飾している。
- ・genuine laughter comes upon us spontaneously は「『本物の笑いは自然に訪れる』」を表す。
- ・it is beyond our control は「『私たちの制御を超えている』」を意味する。

---

#### 第4文

It may be a motor response, / but / we seek out experiences / that will result in laughter, / and / if we don't get the physical reaction, / we don't feel / that we have been amused.

それは身体の運動反応にすぎないのかもしれない / しかし / 私たちは経験を探し求める / それは笑いをもたらす / そして / もし私たちがその身体反応を得られなければ / 私たちは感じない / 自分たちが楽しませられたとは

✔ それは身体の運動反応にすぎないのかもしれないが、それでも私たちは笑いをもたらす経験を求めるのであり、もしその身体的反応が起これなければ、自分が本当に楽しませられたとは感じない。

---

この文の前半の骨格は It may be a motor response である。it は laughter、あるいは humor の身体的側面を受けている。may be は「『～かもしれない』」、a motor response は「『運動反応、身体的反応』」を意味する。motor はここでは「『身体運動に関する』」という意味である。

but の後ろの主節は we seek out experiences that will result in laughter である。seek out は「『探し求める』」を表す句動詞である。experiences が目的語で、that will result in laughter は experiences

を修飾する関係詞節である。result in A は「『A という結果になる、A をもたらす』」を表すので、この部分全体で「『笑いをもたらす経験』」となる。

さらに and の後ろでは if we don't get the physical reaction が条件節となっている。the physical reaction は直前の motor response を言い換えており、「『身体的反応』」を意味する。主節は we don't feel that we have been amused である。feel that ... は「『…だと感じる』」、have been amused は現在完了の受動態で、自然には「『楽しませられた』」と考えればよい。

【ポイント】

- ・It may be a motor response が前半の骨格である。
- ・we seek out experiences は「『経験を探し求める』」を表す。
- ・that will result in laughter は experiences を修飾している。
- ・if we don't get the physical reaction が条件節である。
- ・we don't feel that we have been amused が後半主節の骨格である。

---

## No 43 冬期講習会初日分

### 【2】(1)《長崎大》

Staying centered is what enables you to maintain your identity within the context of a “we” reality. It requires that you remember what it is that makes you uniquely you and enables you to stay on course with your own path. It means that you continually ask the question “Who am I in relation to you?” and are clear about the answer. While it will be necessary, and even desirable at times, for you to be flexible, accommodating\*, and adaptive\*, it will be your responsibility to make sure not to become overly pliant\*. The only thing you have to lose by not being vigilant\* about this is yourself.

(注) accommodating [əˈkɑːmədeɪtɪŋ] 「協力的な」 adaptive [ədæptɪv] 「順応的な」  
pliant [pláɪənt] 「従順な」「言いなりになる」 vigilant [vɪdʒɪlənt] 「用心深い」

---

### 第1文

Staying centered / is / what enables you / to maintain your identity / within the context of a “we” reality.

中心を保つことは / ~である / あなたができるようにするもの / 自分のアイデンティティを保つことを / 「私たち」という現実の文脈の中で

☑ 中心を保ち続けることこそが、「私たち」という現実の文脈の中で、自分のアイデンティティを保てるようにするものである。

---

この文の骨格は Staying centered is what enables you to maintain your identity ... である。Staying centered は動名詞句で、「『中心を保ち続けること』」を表し、文全体の主語になっている。is が動詞である。

補語にあたる what enables you to maintain your identity は what 節であり、「『あなたが自分のアイデンティティを保てるようにするもの』」という意味になる。what は関係代名詞で、「『…するもの』」を表す。enable A to V は「『A が V できるようにする』」という重要表現である。したがって what enables you to maintain your identity で、「『あなたが自分のアイデンティティを維持できるようにするもの』」となる。

within the context of a “we” reality は maintain your identity にかかる前置詞句で、「『「私たち」という現実の文脈の中で』」を意味する。a “we” reality は、個人が単独で存在するのではなく、他者との関係の中で生きる現実を表している。

#### 【ポイント】

- ・Staying centered が文全体の主語である。
- ・what enables you to ... は what 節で、「『…できるようにするもの』」を表す。
- ・enable A to V は「『A が V できるようにする』」という重要表現である。

---

#### 第 2 文

It requires / that you remember / what it is / that makes you uniquely you / and enables you / to stay on course with your own path.

それは要求する / あなたが覚えていることを / 何であるかを / それがあなたを他にないあなたにしているのか / そしてあなたができるようにするのかを / 自分自身の道に沿って進路を保つことが

- それは、自分を他の誰でもない自分になっているものが何であり、また自分自身の道を進み続けられるようにしているものが何であるかを、あなたが覚えていることを要求する。

---

この文の骨格は It requires that you remember ... である。It は直前の内容、つまり「中心を保つこと」を受けている。requires は「『要求する』」であり、that 節がその内容を示している。that you remember ... は「『あなたが…を覚えていること』」という意味である。

remember の目的語にあたるのが what it is that makes you uniquely you and enables you to stay on course with your own path である。ここには、疑問詞 what を強調する形が含まれている。もとの単純な形で言えば what makes you uniquely you 「『何があなたをあなたらしくしているのか』」で

あるが、ここでは what it is that ... という形にすることで、「『いったい何がまさにあなたをあなたらしくしているのか』と焦点を強めている。つまり、これは疑問詞を強調する構文である。

この形は、疑問詞 + it is (that) ... によって疑問詞部分を目立たせるものである。さらに、これが疑問文になると、語順は 疑問詞 + is it (that) ... ? となる。たとえば What is it that you want? は「『いったい何がほしいのか』という意味で、what を強く押し出す形である。したがって、この文の what it is that ... も、平叙文の中で what に強い焦点を与えていると理解するとよい。

that makes you uniquely you の部分では、make A B が「『A を B にする』」を表している。uniquely you は「『他の誰でもない、あなた独自のあなた』」という意味である。したがってこの部分全体で、「『何があなたを他にないあなたにしているのか』」となる。

and enables you to stay on course with your own path は makes ... と並列で、同じ what の内容を受けている。enable A to V は「『A が V できるようにする』」を表す。stay on course は「『進路を保つ、道を外れず進む』」という意味の句であり、with your own path は「『自分自身の道に沿って』」を表している。したがってこの部分は、「『何があなたを自分の道に沿って進み続けられるようにしているのか』」という意味になる。

#### 【ポイント】

- ・It requires that ... が文の骨格である。
- ・what it is that ... は、疑問詞 what を用いた強調の形で、「『いったい何が…なのか』」を表している。
- ・この形が疑問文になると、疑問詞 + is it (that) ... ? となる。例: What is it that you want?
- ・stay on course with your own path は「『自分の道に沿って進路を保つ』」を表している。

---

### 第3文

It means / that you continually ask / the question / “Who am I in relation to you?” / and are clear / about the answer.

それは意味する / あなたが絶えず問うということを / 問いを / 「あなたとの関係において私は誰か」 / そして明確であるということを / その答えについて

✓ それは、あなたが「あなたとの関係において私は誰か」という問いを絶えず自分に投げかけ、しかもその答えについて明確であることを意味する。

---

この文の骨格は It means that you continually ask the question ... and are clear about the answer である。It は前文までの内容、つまり「中心を保つ

こと」を受ける。means は「『意味する』」である。

that 節の中では、you continually ask the question ... がまず置かれている。continually は「『絶えず、繰り返し』」を表す副詞である。the question の内容が引用符の中の “Who am I in relation to you?” で示されている。in relation to A は「『A との関係において』」を表す。したがってこの問いは、「『他者との関係の中で、自分はどのような存在なのか』」という意味になる。

その後の and are clear about the answer は、主語 you を共有して ask と並列になっている。be clear about A は「『A について明確である』」を意味する。the answer は直前の問いへの答えである。

#### 【ポイント】

- ・It means that ... が文の骨格である。
- ・ask the question ... と are clear ... が and で並列されている。
- ・in relation to A は「『A との関係において』」を表す。
- ・be clear about A は「『A について明確である』」を意味する。

---

#### 第 4 文

While it will be necessary, / and even desirable at times, / for you to be flexible, accommodating, and adaptive, / it will be your responsibility / to make sure not to become overly pliant.

～ではあるが / それは必要になるだろう / そして時には望ましくさえあるだろう / あなたが柔軟で協力的で順応的であることは / それはあなたの責任になるだろう / 過度に従順になりすぎないように確かにすることが

☑ あなたが柔軟で、協力的で、順応的であることは必要になるだろうし、時には望ましくさえあるだろうが、それでも、過度に従順になりすぎないように気をつけることは、あなた自身の責任なのである。

---

この文は While 節を伴う文である。While it will be necessary, and even desirable at times, for you to be flexible, accommodating, and adaptive の骨格は it will be necessary for you to be ... である。it は形式主語で、真主語は for you to be flexible, accommodating, and adaptive である。necessary は「『必要な』」、desirable は「『望ましい』」を意味する。at times は「『時には』」である。

for you to be flexible, accommodating, and adaptive は、「『あなたが柔軟で、協力的で、順応的であること』」を表している。flexible は「『柔軟な』」、accommodating は「『協力的な』」、adaptive は「『順応的な』」である。つまり他者との関係の中では、ある程度合わせることも必要であり、ときには好ましいと認め

ている。

主節の骨格は it will be your responsibility to make sure not to become overly pliant である。it は形式主語で、真主語は to make sure ... である。be your responsibility は「『あなたの責任である』」を意味する。make sure not to V は「『Vしないように気をつける、確かにする』」を表す。not to become overly pliant の overly は「『過度に』」、pliant は「『従順な、言いなりになる』」である。

#### 【ポイント】

- ・While 節では、「『柔軟であることは必要で、ときに望ましい』」という譲歩が述べられている。
- ・it will be necessary for you to be ... は形式主語構文である。
- ・it will be your responsibility to ... も形式主語構文で、「『…することはあなたの責任だ』」を表す。
- ・to make sure not to become overly pliant は「『過度に従順にならないように気をつける』」を意味する。

---

#### 第5文

The only thing / you have to lose / by not being vigilant about this / is / yourself.

唯一失うことのあるものは / あなたが失うことになる / このことについて用心深くしていないことで / ~である / あなた自身である

✔この点について用心深くしていなければ、あなたが失うことになる唯一のものは、あなた自身である。

---

この文の骨格は The only thing ... is yourself である。The only thing が主語、is が動詞、yourself が補語である。only thing は「『唯一のもの』」を意味する。

you have to lose は thing を後ろから修飾する節で、「『あなたが失うことになる』」という意味である。have to lose はここでは「『失いかねない、失うことになる』」と自然にとるとよい。

by not being vigilant about this は lose にかかる前置詞句で、「『このことについて用心深くしていないことによって』」を意味する。be vigilant about A は「『A について用心深い、注意を怠らない』」を表す。this は直前の内容、つまり「柔軟であっても自分を失わないように気をつけること」を受けている。

補語の yourself は強い結論であり、「『失うのはあなた自身だ』」という意味になる。

#### 【ポイント】

- ・The only thing ... is yourself が文の骨格である。
  - ・you have to lose は thing を修飾している。
  - ・by not being vigilant about this は『『このことに注意を払わないことで』』を表す。
  - ・yourself が強調的な結論になっている。
- はい。ご指定の修正を反映した全文完成版を整えて表示します。

## **[2](2)[英文解釈]《慶應大》**

Our brains are more than organic computers, programmed by genetic codes simply to respond to and act on a variety of stimuli. They house “us” — our personalities. All of our experiences, from our earliest years onwards, are recorded here, and those experiences continually shape us. Most actual decisions and actions result from a lengthy process of interaction with other people and within ourselves. It is this process, as much as our genes, which helps our brains to make the millions of decisions that cause us to think and act. Genes might build our brains, but we are more than our brains; we are creatures with individual memories and experiences, creatures with free will.

(注) stimuli[stímjuli]「刺激」(stimulusの複数形[stímjuləs])

### 第1文

Our brains are more than organic computers, / programmed by genetic codes / simply to respond to and act on / a variety of stimuli.  
 私たちの脳は単なる有機的コンピューター以上のものであり / 遺伝子の暗号によってプログラムされ / 単に反応し、それに応じて働くためだけに / さまざまな刺激に対して

✔ 私たちの脳は、単にさまざまな刺激に反応し、それに応じて働くように遺伝子の暗号によってプログラムされた有機的コンピューター以上のものである。

この文の骨格は Our brains are more than organic computers である。Our brains が主語、are が動詞、more than organic computers が補語である。more than はここでは『『単なる～以上のもの』』という意味であり、脳を単なる機械的装置としてとらえる見方を否定している。

programmed by genetic codes / simply to respond to and act on a variety of stimuli の部分は、主節に付け足される分詞構文的な説明として読むとわかりやすい。内容的には、organic computers の性質を述べつつ、『『遺伝子

の暗号によってプログラムされ、単にさまざまな刺激に反応し、それに応じて働くだけのものとして』という含みを加えている。genetic codes は『遺伝子の暗号』である。

さらに to respond to and act on a variety of stimuli では、a variety of stimuli が respond to と act on の共通の目的語になっている。つまり、『さまざまな刺激に反応し、またその刺激に応じて働く』という並列である。respond to A は『Aに反応する』、act on A はここでは『Aに応じて働く、Aに作用する』と考えると自然である。a variety of stimuli は『さまざまな刺激』を表す。

【ポイント】

- ・Our brains are more than organic computers が文の骨格である。
- ・programmed by genetic codes ... は、主節に付け足される分詞構文的な説明として読める。
- ・a variety of stimuli は respond to と act on の共通の目的語である。
- ・respond to A / act on A はそれぞれ『Aに反応する』『Aに応じて働く』を表す。

---

## 第2文

They house “us” / — our personalities.

それらは「私たち」を宿している / — すなわち私たちの人格を

☑ 脳は「私たち」自身、すなわち私たちの人格を宿している。

---

この文の骨格は They house “us” である。They は直前の Our brains を受ける。house はここでは『収める、宿す』を意味する動詞である。したがって They house “us” は、『脳は私たち自身を宿している』という意味になる。ダッシュの後ろの our personalities は、“us” を言い換える同格である。つまりここでいう “us” とは、単なる肉体ではなく、『私たちの人格』を指している。

【ポイント】

- ・They house “us” が文の骨格である。
- ・house はここでは『宿す』を意味する。
- ・ダッシュの後ろの our personalities は “us” の同格である。

---

## 第3文

All of our experiences, / from our earliest years onwards, / are recorded here, / and / those experiences continually shape us.

私たちの経験のすべては / 幼いころからずっと / ここに記録されており / そして / それらの経験は絶えず私たちを形づくる

☑ 私たちの経験のすべては、幼いころからずっと、ここに記録されており、そしてそれらの経験は

絶えず私たちが形づくっている。

---

この文は and で結ばれた二つの節から成る。前半の骨格は All of our experiences are recorded here である。All of our experiences が主語、are recorded が受動態の動詞、here が場所を示している。here は脳を指す。from our earliest years onwards は挿入的な副詞句で、『私たちのごく幼いころからずっと』を意味する。onwards は『その時から先ずっと』という継続を表す。

後半の骨格は those experiences continually shape us である。those experiences は前半の experiences を受ける。shape us は『私たちが形づくる』を表し、continually が『絶えず』を添えている。

したがってこの文は、経験は脳に蓄積されるだけでなく、その後も継続的に人格や行動を形成していくと述べている。

【ポイント】

- ・前半は All of our experiences are recorded here、後半は those experiences continually shape us の二本立てである。
  - ・from our earliest years onwards は『幼いころからずっと』を表す。
  - ・shape us は『私たちが形づくる』を意味する。
- 

#### 第4文

Most actual decisions and actions / result from a lengthy process / of interaction with other people and within ourselves.

実際の決定や行動の大部分は / 長い過程から生じる / 他人との相互作用や私たち自身の内面での相互作用という

- ✓ 実際の決定や行動の大部分は、他人との相互作用や、私たち自身の内面での相互作用という長い過程から生じる。
- 

この文の骨格は Most actual decisions and actions result from a lengthy process である。Most actual decisions and actions が主語で、『実際の決定や行動の大部分』を表す。result from A は『A から生じる』という重要表現である。a lengthy process は『長い過程』を意味する。

その後の of interaction with other people and within ourselves は process を後ろから説明している。interaction with other people は『他人との相互作用』であり、ここでの with は『～との』という相手・関係の相手を表している。したがって、interaction は一方的な働きかけではなく、『他者とのやりとり・相互作用』という意味になる。

一方、within ourselves は『私たち自身の内面で』を意味する。つまり、決定や

行動は、外からの影響だけでなく、自分の内面での葛藤や熟慮を含む長いプロセスの結果だということである。

【ポイント】

- ・result from A は「『A から生じる』」を表す。
- ・interaction with other people の with は、「『～との相互作用』」の相手を示している。
- ・within ourselves は「『私たち自身の内面で』」を表す。

---

第5文

It is this process, / as much as our genes, / which helps our brains / to make the millions of decisions / that cause us to think and act.

それはまさにこの過程である / 私たちの遺伝子と同じくらい / それが私たちの脳を助ける / 何百万もの決定を行うのを / それらは私たちに考えさせ行動させる

☑ 私たちの脳が、私たちに考えさせ行動させる何百万もの決定を行うのを助けるのは、私たちの遺伝子と同じくらい、まさにこの過程なのである。

---

この文には強調構文が含まれている。骨格は It is this process ... which helps our brains to make the millions of decisions である。It is ... which ... は強調構文であり、ここでは this process が強調されている。つまり「『私たちの脳を助けているのは、まさにこの過程なのだ』」という強い言い方である。

as much as our genes は挿入句で、「『私たちの遺伝子と同じくらい』」を意味する。つまり筆者は、遺伝子の働きを否定するのではなく、それと同じ程度に「経験や相互作用の過程」も大切だと言っている。

which helps our brains to make the millions of decisions の helps A to V は「『A が V するのを助ける』」を表す。ここで the millions of decisions の the は、いわゆる予告の the と考えるとよい。つまり、ただ「何百万もの決定」と漠然と言うのではなく、直後の that cause us to think and act によって、その中身があとから具体的に説明されることを前提に the が置かれている。したがって the millions of decisions は、「『私たちに考えさせ行動させる、あの無数の決定』」という感じになる。

さらに that cause us to think and act は decisions を修飾する関係詞節である。cause A to V は「『A に V させる』」で、「『私たちに考えさせ、行動させる決定』」を意味する。

【ポイント】

- ・It is this process ... which ... は強調構文である。
- ・as much as our genes は「『遺伝子と同じくらい』」を表す挿入句である。
- ・the millions of decisions の the は、後ろの that 節 で内容が具体化され

る予告の the と考えられる。

・that cause us to think and act は decisions を修飾している。

---

#### 第6文

Genes might build our brains, / but / we are more than our brains; / we are creatures / with individual memories and experiences, / creatures with free will.

遺伝子は私たちの脳を形づくるかもしれない / しかし / 私たちは単に脳そのものではない / 私たちは存在である / 個々の記憶と経験をもつ / 自由意志をもつ存在である

✔ 遺伝子は私たちの脳を形づくるのかもしれないが、私たちは単に脳そのものではない。私たちは、それぞれの記憶と経験をもち、さらに自由意志をもつ存在なのである。

---

この文は but とセミコロンによって大きく二段階に分かれている。最初の骨格は Genes might build our brains, but we are more than our brains である。might build は「『形づくるかもしれない』」を表し、ここでは遺伝子が脳の形成に関与する可能性を認めている。

しかし but の後ろで、we are more than our brains と続く。more than は「『～以上のものである』」を表し、人間は脳という器官に還元できない存在だと述べている。

セミコロンの後ろでは、その内容が言い換えられている。we are creatures with individual memories and experiences の creatures は「『存在』」、with individual memories and experiences は「『個々の記憶と経験をもつ』」を表す。さらに creatures with free will と重ねることで、「『自由意志をもつ存在』」であることが強調されている。

#### 【ポイント】

・Genes might build our brains, but we are more than our brains が文の中心である。

・more than は「『～以上のものである』」を表す。

・セミコロンの後ろは、前半の内容を言い換えて具体化している。

・with individual memories and experiences, with free will が人間の特徴を示している。